

研究概要

平成20年の中学校学習指導要領解説外国語編には、思考力・判断力・表現力等を育む基本方針の一つとして、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーションの中での基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力などの育成を重視する。」¹⁾とある。また、外国語科の目標に「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」とあり、4技能の総合的な育成を重視している。さらに、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信する力が求められている。「書くこと」の領域においては、特に「一文一文を正しく書くだけでなく、文と文の順序や相互の関連にも注意をはらい、全体として一貫性のある文章を書くようにすることが大切である。」と、一貫性のある文章を書くことの重要性が述べられている。

また、中央教育審議会外国語専門部会（平成19年9月）では、基本的な語彙や文構造、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力が十分に身に付いていない状況が挙げられた。社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語による「発信力」の育成が重要であることが示された。

公立の中学校第3学年の生徒に、「自己PRしよう」というテーマに基づいて英文を書かせたところ、単なる文の羅列が多かったり、途中で話題が変わってしまったりする文章が多く、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができないことが分かった。

そこで、本研究では、「書くこと」の領域に着目して、充実した言語活動を取り入れた授業改善に取り組んでいる。内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てるためには「読むこと」を通じて得た知識等について、自分の考えなどと結び付けながら活用し、「書くこと」を通して発信することが必要であると考え。つまり、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた「再構成」を取り入れた授業展開を通して、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てる英語科学習指導を追究した。

また、内容的にまとまりのある一貫性のある文章とは、「主題文、支持文、結論文で構成された文章で、かつ、つなぎ言葉を使っている文章、読み手に正しく伝わる正確な文章」と捉えた。ここでは文章の「再構成」の方法が研究の中心となるが、それを支える補助的な活動としてマッピングを取り入れる。マッピングとは、一般的には、ある単語から連想される他の単語を蜘蛛の巣のように書き出していく活動であるが、本研究では、ポストリーディング（読後）でのマッピングを活用する。ある読み物を読んだ後、内容を整理・分類するために、主題文、支持文、結論文に相当するキーワードを書き出していく。そして、そのマッピングを見ながら自分の言葉で説明文の文体で書き直す。その際に、つなぎ言葉や接続詞、役立つ表現をまとめたガイドブックを提示する。英語の苦手な生徒の手助けになると考える。最後に、3、4人のグループごとに書いた英文をお互いに読み合うピア・フィードバックを行う。単語のつづりや文法的な誤りを指摘し合うことで、正確な文章に近付けていく。もちろん、生徒だけのフィードバックでは不十分な場合もあるため、教師からのフィードバックも行う。

平成23年9月の内地留学以後、この「再構成」の学習を年間指導計画に位置付け、ライティング関連の単元（年間5回）において、計画的・継続的に実践してきた。今後も工夫・改善を図りながら、「再構成」を継続的に実践していくことで、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができる生徒を育成していきたい。

目 次

研究概要	
1 主題設定の理由	P 1
2 研究のねらい	P 2
3 研究の仮説	P 2
4 研究の内容	P 2
(1) 基本的な考え方	P 2
① 内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力について	P 2
② 発信力について	P 2
③ 目指す生徒が育つ過程	P 3
④ 研究主題に到達した生徒の姿	P 3
⑤ 「再構成」を取り入れた活動	P 3
⑥ ガイドブックの活用	P 3
⑦ ピア・フィードバックを取り入れた活動	P 3
(2) 主題に迫るために	P 4
① 内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことに関する生徒の実態	P 4
② マッピングの活用	P 4
③ 「再構成」を取り入れた授業展開	P 4
④ ガイドブックの活用	P 5
⑤ ピア・フィードバック	P 5
5 研究の実際	P 6
(1) 授業実践	P 6
① 単元の指導計画	P 6
ア 単元名	P 6
イ 単元目標	P 6
ウ 単元の指導計画	P 6
② 授業の記録	P 7
(2) 授業の分析と考察	P 8
① 手立てについて	P 8
ア マッピングの活用から	P 8
イ 「再構成」を取り入れた授業展開から	P 8
ウ ガイドブックの活用から	P 10
エ ピア・フィードバックから	P 10
② 学年全体の変容	P 11
(3) 実践の結果と考察	P 12
6 研究のまとめ	P 13
7 今後の課題	P 13
〈引用文献〉	P 13
〈参考文献〉	P 13

研究主題 内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てる英語科学習指導の在り方

— 中学校第3学年My Project 9「自己PRしよう」における「再構成」を取り入れた授業展開を通して —

筑西市立下館北中学校 秋葉 俊明

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）では、外国語科の目標に「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」とあり、4技能の総合的な育成を重視している。さらに、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信する力が求められている。「書くこと」の領域においては、特に「一文一文を正しく書くだけでなく、文と文の順序や相互の関連にも注意をはらい、全体として一貫性のある文章を書くようにすることが大切である。」¹⁾と、一貫性のある文章を書くことの重要性が述べられている。

また、中央教育審議会外国語専門部会（平成19年9月）では、基本的な語彙や文構造、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力が十分に身に付いていない状況が挙げられた。そして、改善の方向性として、英語による「発信力」の育成が重要であることが示された。

さらに、平成25年度学校教育指導方針の「県学力診断のためのテスト」の結果には、「読むことを書くことに結び付けることに課題が見られ、理由や説明などまとまりのある文章を書く力が十分でない。」と記されている。

公立の中学校第3学年の生徒79人に、英語の4技能に関する意識調査をしたところ、「あなたはどんな力を伸ばしたいですか。」という問いに対して、「書く力」と答えた生徒が全体の約73%と最も多かった。「自己PRしよう」というテーマについて生徒に英文を書かせたところ、単なる文の羅列や何を伝えたいのか不明確な文章が多かった。また、単語や文法的な誤りが多かった。さらに、主題文で述べたことの原因や説明が書かれていなかったり、最後の結びの文を書いているなど、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分ではないことが分かった。これまでの自分の授業を振り返ってみると、文法に重点を置き、一文一文を正しく書かせる指導は行ってきたが、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書かせる指導は不十分であった。文と文のつながりなどに注意しながら、一貫性のある文章を書くことができるよう、授業展開を工夫する必要があると考える。

そこで、本研究ではポストリーディング（読後）でのマッピングを取り入れる。ある対話文を読んだ後、その内容を確認するためにグループで話し合いながら、キーワードを分類、整理することができるようなマッピングを行う。

また、「読むこと」と「書くこと」とを関連付けた「再構成」を取り入れる。「再構成」とは、生徒が対話文を読み取り、その読み取った内容を自分の言葉で説明文を書く活動である。「読むこと」から得た情報や知識を活用し、一貫性のある文章を「書くこと」で再構成させたい。また、ガイドブックを導入し、つなぎ言葉や表現などを補足していく。

さらに、学び合いのある言語活動を充実させるために、生徒がお互いの書いた英文について検討し合うピア・フィードバックを取り入れる。生徒がお互いの書いた文章について、書き手と読み手の立場を交換しながら、単語のつづりや文法的な誤りなどについて検討し合う活動を行う。この活動を通して、読み手に正しく伝わるような文章を書くことができるようにしたい。

以上のように、「再構成」を取り入れた授業展開を行えば、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第3学年My Project 9「自己PRしよう」における「再構成」を取り入れた授業展開を通して、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てる英語科学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

中学校第3学年My Project 9「自己PRしよう」において、「再構成」を取り入れた授業展開を行えば、文と文のつながりに注意し、内容の構成を意識した文章を書くようになり、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力が育つであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

① 内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力について

千葉大学教授の大井恭子氏は『パラグラフ・ライティング指導入門』の中で、一貫性のある文章について、次のように述べている。「段落構成には、二つの重要な点があり一つが結束性で、もう一つが話題の一貫性である。結束性とは、接続詞やつなぎ言葉を正しく用いて、文と文をつないでいることである。話題の一貫性とは、主題文で述べられたテーマが文章全体で一貫して述べられていることである。つまり英文のパラグラフでは、同一のパラグラフ内は同一のテーマに沿った内容の文で構成される。一般的に英文のパラグラフは、始めに主題文によってテーマを示し、次に支持文によって具体例や理由などを述べ、主題文の内容を補強していく。最後に結論文によって内容をまとめるものとする。」²⁾ これらを踏まえ、本研究では、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を、soやthenなどのつなぎ言葉を使い、主題文、支持文、結論文で構成された文章を書く力と捉えた。

② 「発信力」について

中央教育審議会外国語専門部会において「発信力」とは、「コミュニケーションを通して得た知識や情報を基にして、自分の思いや考えなどを話したり書いたりしながら、相手に伝達することができる力」と定義付けている。中学校における英語教育に求められているものは、外国語活動で育まれた素地を基に、「情報や考えなどを的確に理解したり、相手に適切に伝えたりする」ために、4技能をバランスよく育成することであると考える。本研究では、対話文を読んで得た知識や情報に、自分の考えや気持ちを結び付けて、「再構成」することで、発信力のある生徒を育てていきたい。

③ 目指す生徒が育つ過程

内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができる生徒が育つ過程を次のように捉えた。まず対話文を読む「習得」の段階では、語彙や表現または知識や情報を得る。その後、主題文、支持文、結論文に相当するキーワードを分類、整理するためにマッピングを行う。次の「活用」の段階では、読み取った情報や知識を活用して、自分の言葉で文章を再構成する。そして、「検討」の段階では、お互いの英文を読み合い、正しい英文にしていくピア・フィードバックを行う。最後に「発信」として自分の考えや気持ちなどを書いて表現する活動を取り入れる。このように、学習過程に応じた教師の手立てを仕組むことにより、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力が育つようにする。

④ 研究主題に到達した生徒の姿

本研究では、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができる生徒の姿を、次のような三つの姿として捉えた。主題文、支持文、結論文で構成された文章を書くことができる生徒、つなぎ言葉を使って、文と文のつながりに注意して文章を書くことができる生徒、文法的な誤りのない正確な文章を書くことができる生徒と捉えた。

⑤ 「再構成」を取り入れた活動

一般的に「再構成」とは、あるまとまった英文を聞き取り、その聞き取った内容を自分の言葉で話す活動をいう。本研究では「読むこと」と「書くこと」を関連付けた「再構成」を行い、読んだものを自分の言葉で書いて表現する。ある題材を読むことで、生徒は様々な情報や知識を習得し、その習得した情報や知識を活用しながら読んだ題材を「再構成」する。この活動を行うことで、「習得」と「活用」という学習過程が生まれ、その学習過程から多くの学びを得ることができるようにする。

⑥ ガイドブックの活用

内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くときに、生徒たちにとって参考になるような「役立つ表現集」として、ガイドブックを作成した。文をつなげるときや、接続詞が分からないときに利用できるように工夫した。また、自分のことや身近なことについて表現するときに、よく使う英文を載せた。英文を書くことが苦手な生徒でも、単語を自分の立場に置き換えるだけで、英文を書けるように配慮した。

⑦ ピア・フィードバックを取り入れた活動

他者との相互的なかわりを通して、安心して学べる雰囲気の中で、学びを深め、広めていきながら、自己の有用感を高めていく学習過程を「学び合い」と考える。これまでの授業では、友だちの英文を読み合う場面はほとんどなかった。そこで、3、4人のグループを作り、お互いの英文を読むことで、単語のつづりの間違いに気付いたり、正しい表現を理解したりするなど、学び合うことができると考えた。また、語彙を増やすと同時につづり等の誤りを減らすために、辞書を積極的に利用させた。生徒だけのフィードバックでは、正確な文章にならないこともあるため、教師からのフィードバックも行う。どのクラスもティームティーチングや少人数指導を行っているためALTが来校する日は3人での指導が可能となる。3人の教師で分担すると、1人の教師が7～8人の英文を読むとこに集中できるため、授業中に全生徒の英文をフィードバックすることができる。

(2) 主題に迫るために

① 内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことに関する生徒の実態

中学校第3学年の生徒79人に、「自己PRしよう」というテーマについて英文を書かせた。文章の一貫性については、資料1-①の評価の項目に基づいて、7点満点で評価した。この評価の項目は、村岡英治氏の著書『確かな表現力を身に付けるための英語科授業の研究-4技能を統合した英語による言語活動の工夫-』を参考にしたものである。資料1-②は点数別の人数であり、2点以下の生徒が43人（約54%）もいた。資料1-③はそれぞれの項目について書くことができた人数である。主題文と支持文を書いている生徒は多かったが、結論文を書いている生徒は4人しかいなかった。また、途中で話題が変わっている文章もあった。soやthenなどのつなぎ言葉を使っている生徒は9人しかいなかった。これらのことから、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができていないことが分かった。

② マッピングの活用

生徒が書いた英文を読むと、単文の羅列が多く内容に広がりが少ないことが分かった。「書く内容が思いつかない。」、「何を書いたらよいか分からない。」など、生徒にとってはアイデアを引き出すことが難しいようなので、マッピングを取り入れてみた。マッピングとは、一般的に一つの単語から、その単語に関連のある他の語を蜘蛛の巣のように広げていき、語句を整理するときを使う手法である。そこで、本研究では、文章構成をよりよく理解するために、ポストリーディング（読後）でのマッピングを取り入れた。

③ 「再構成」を取り入れた授業展開

「再構成」を授業に取り入れる上で大切なことは、生徒が興味をもつ題材を提示することである。生徒にとって身近であり、自分の考えや気持ちなどを表現することができるものにするために、教師が題材を作成する。または、教科書の対話文を利用することもできる。題材は対話形式のものとし、「再構成」する際に、主語を一人称で表現できるようにする。一人称で表現させることは、自分の考えや気持ちなどを表現する際に大いに役立つと考える。さらに、対話文については、主題文、支持文、結論文を生

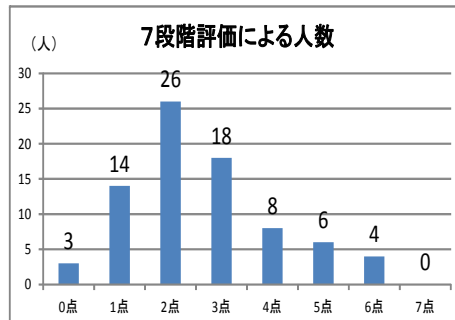
資料1 英作文の実態調査

(** 中学校第3学年79人)

資料1-① 一貫性の評価項目

- ・ 主題文が書いてある。 → 1点
 - ・ 支持文が書いてある。 → 1点
 - ・ 結論文が書いてある。 → 1点
 - ・ つなぎ言葉を使っている。 → 1点
 - ・ 正確な文章を書いている。
 - 1, 2文 → 1点
 - 3, 4文 → 2点
 - 5文以上 → 3点
- ※合計7点満点で評価する。

資料1-② 7段階評価による人数



資料1-③ 項目別の人数

評価の項目	(人)
・ 主題文が書いてある。	73
・ 支持文が書いてある。	51
・ 結論文が書いてある。	4
・ つなぎ言葉を使っている。	9
・ 正確な文章を書いている。 (3点を獲得した人数)	6

徒が理解することができるような内容にし、文章の構成を理解させる。

④ ガイドブックの活用

文章を構成する際に必要な表現や、文と文をつなぐつなぎ言葉等を補助するために、資料2のような役立つ表現集（ガイドブック）を活用させる。下線部を自分の立場に置き換えることで、自分の考えや気持ちを表現できるようにした。これをファイルに綴じさせいつでも利用できるようにする。

資料2 ガイドブック(一部抜粋)

内容的にまとまりのある一貫性のある文章とは...

主題文 = 1 番言いたいことを書く

My dream is to be a teacher. (私の夢は先生になることです。)

I want to be a nurse. (私は看護婦になりたいです。)

I like to play baseball. (私は野球をすることが好きです。)

I'm very tired, **but it's** very exciting.

(疲れるけど、とてもワクワクします。)

I want to help sick people. (私は病人を助けたいです。)

I'm going to go abroad. (私は海外に行くつもりです。)

We have to save the earth. (私たちは地球を救わなければなりません。)

I have three/two reasons. (3つ/2つの理由があります。)

支持文 = 理由や説明を書く

First, (まず第一に) **For example**, (例えば) **especially** (とくに)

My favorite thing is listening to music. (私の好きなことは音楽鑑賞です。)

Reading books is a lot of fun. (本を読むことはとても楽しいです。)

Playing soccer is very exciting. (サッカーをすると、とてもワクワクします。)

Second, (次に) **Besides** (さらに) **then** (それから)

Talking with my friends makes me happy. (友だちと話すのは楽しいです。)

It's fun for me to go shopping. (買い物をするのは私にとって楽しいです。)

Third, (3つめは) **Finally** (最後に)

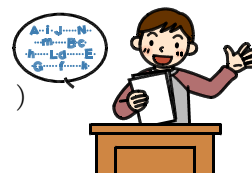
I was very impressed with the movie. (私はその映画に感動しました。)

結論文 = 主題で書いたことを別な表現でもう1度書く

So, (だから) **therefore** (したがって)

That is why~ (そういうわけで)

For these reasons, (これらの理由で)



つなぎ言葉や代名詞を使うと、つながりがでるよ。

⑤ ピア・フィードバック

3～4人のグループを作成し、書いた英文を順番に回しながら、お互いに書いた英文を読み合う。それぞれの英文をグループで検討し合うことで、正しい英文にしていく。単語のつづりや文法的な誤りに気付いたら、その単語の下に線を引くことで誤りを指摘していく。さらに、教師によるフィードバックを行い、より正確な文章になるようにする。ALTを含めた3人の教師で分担すると、1人の教師が2グループ(7, 8人)の英文を読むことになり、授業中にクラスの生徒全員の英文をフィードバックすることができる。

5 研究の実際

(1) 授業実践

① 単元の指導計画

ア 単元名 My Project 9 「自己PRしよう」

イ 単元目標 内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができる。

ウ 単元の指導と評価計画（4時間扱い）

単元の導入として、ガイドブックを活用しながら「再構成」に関するガイダンスを行い、学習活動の流れを説明する。まず対話文を読んだ後、ワークシートのQ&Aで内容を確認する。次に、主題文、支持文、結論文に相当するキーワードを書き出すマッピングを行う。そして、対話文の内容を自分の言葉で「再構成」し、文章を書く。最後にピア・フィードバックでお互いの英文を読み合い、単語や文法的な誤りなどを指摘し合う。自分のところに戻ってきたら、もう1度書き直す。この活動を2時間行うことで文章構成の仕方を理解する。最後の時間に、この単元で学んだ文章の書き方を基に「自己PRしよう」というテーマで英文を書く。これらの学習を資料3のような指導計画に位置付けて、ライティング関連の単元において、計画的・継続的に実施することで、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てていく。

資料3 指導計画

時	学習内容・活動	評価の観点				評価規準（評価方法）
		関	表	理	言	
1	・「再構成」に関するガイダンスを行う。				○	・内容的にまとまりのある一貫性のある文章の書き方について理解している。 （観察、ワークシート）
2 本時	・対話文を読み、Q&Aに答えた後、グループでマッピングを行う。 ・「夢」について、第1回「再構成」を行う。 ・グループでピア・フィードバックを行う。	○			○	・対話文の内容を理解している。 （観察、ワークシート） ・対話文の内容を自分の言葉で説明文の文体で書いている。 （ワークシート、発表）
3	・対話文を読み、Q&Aに答えた後、グループでマッピングを行う。 ・「環境」について、第2回「再構成」を行う。 ・グループでピア・フィードバックを行う。	○			○	・対話文の内容を理解している。 （観察、ワークシート） ・対話文の内容を自分の言葉で説明文の文体で書いている。 （ワークシート、発表）
4	・「自己PRしよう」というテーマで英作文を書く。		○			・文章構成を意識して、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができる。 （ワークシート、発表）

② 授業の記録

資料4は、全体の様子と抽出した3人の生徒の様子を記録したもので、下線部は目指す生徒像に迫ろうとしている場面である。

資料4 抽出した生徒の様子

学習の流れ		抽出した生徒の様子		
		A	B	C
抽出した生徒 <ul style="list-style-type: none"> A 英語学習に積極的に取り組み、英語を使って話したり、書いたりすることができる。 B 英語学習への意欲は高いが、内容的にまとまりのある文章を書くことが苦手である。 C 英語学習への意欲は高いが、書くことにおいては、単語の綴りや文法的な誤りが多い。 				
1 ウォームアップを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 元気よく英語であいさつをし、日付などの教師の質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で、あいさつし、教師の質問に積極的に挙手をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声ではないが、英語できちんと答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声ではないが、積極的に、英語で答えようとする。
2 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「一貫性のある文章を書く」というめあてを見て、本時の学習活動を確認する。 ガイドブックを見て、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板のめあてを見て、本時の学習課題を確認する。 ガイドブックを見て、再構成の説明を真剣に読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板のめあてを見て、本時の学習課題を確認する。 ガイドブックを見て、再構成の箇所に線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板のめあてをノートに丁寧に書く。 ガイドブックを見て、再構成の説明を真剣に読む。
(1) 題材を読む。	<ul style="list-style-type: none"> 夢に関する対話文を積極的に音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字から目を離し、Read and Look up を心がけて、大きな声で、元気よく音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を見ながら、真剣に音読する。 時々、文字から目を離し、音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を見ながら、音読する。 A L T に読み方を尋ねる。
(2) ワークシートのQ&Aに答える。	<ul style="list-style-type: none"> 分からない単語は辞書を利用して、内容を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習したガイドブックを活用しながら、内容を確認する。 対話文を読み返し、内容を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確ではないが、文章の概要はとらえる。 日本人の教師に another の意味を尋ねる。 That's true. の意味を辞書で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> makes me happy の意味につまずいていたが、日本人の教師に教わり、なんとか読み取る。 辞書を使って、also の意味を調べる。
(3) マッピングを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループを作りお互いに相談しながら、主題文、支持文、結論文に相当するキーワードを対話文から探して書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題文に相当する dream, teacher をすぐに書き出す。 先生になりたい3つの理由が支持文になることを友だちに教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 助言を与えると、すぐに主題文になるキーワードを書き始める。 教師のアドバイスを生かし、結論文は、主題文と同じ内容になることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 黙々と板書を書き写す。 辞書を用いて、another の意味を調べる。 A L T の助言を生かし、favorite の意味を理解し、キーワードを書く。
(4) 自分の言葉で再構成する。	<ul style="list-style-type: none"> 題材を基に自分なりに再構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題文、支持文、結論文の構成を意識しながら文章を書く。 First, Second, Third などのつなぎ言葉を使って、先生になりたい理由を順序よく書く。 So を使って結論文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートのQ&Aとガイドブックを見て、構成を意識した文章を書くようになる。 ガイドブックのつなぎ言葉をマーカーペンでなぞり、意味を確認する。 ガイドブックにある I have three reasons. を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題文はすぐに書くことができる。題材を読み返しながら、ガイドブックを用いて支持文を書く。 題材の英文にアンダーラインを引くなど、ポイントを確認する。
3 ピア・フィードバックを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに、真剣に友だちの英文を読む。 綴りに誤りがある単語の下に線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法、綴り、一貫性を評価し、細かく感想を書く。 辞書で単語の綴りを確認しながら、書き直す。 ガイドブックを参考に、つなぎ言葉を引用して、書き直す。 主題文と結論文を別な表現で書く。 友だちの英文の reason に s がいないこと指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点に沿って、一語一語丁寧に読む。 自分が書いた英文が戻ってきて、友だちが書いた感想を真剣に読む。 書き直す際に、So などのつなぎ言葉を使って書くようになる。 a teacher の a が抜けていることを教師に指摘され、書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの英文を真剣に読む。 children の読み方を友だちにたずねる。 to de を友だちに指摘され、to be に書き直す。 自分のところに戻ってきたワークシートを見て、友だちが書いた感想を真剣に読む。 A L T の助言を受け、two を two に書き直す。
4 本時の学習を振り返り、次時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、自己評価欄に感想などを記入する。 次時は「自己PRしよう」というテーマで英作文を書くことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、自己評価欄に反省や感想を記入する。 「マッピングで文章の内容を再確認できた。友だちと一緒にキーワードを探すのは楽しい。」 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、自己評価欄に感想、反省を記入する。 「友だちの英文を読み、とても参考になった。また、自分の英文の誤りに気づいてくれてうれしかった。」 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、自己評価欄に感想などを丁寧に記入する。 「ガイドブックを見ているつなぎ言葉や英文を覚えた。So を使うとまとめの文になることが分かった。」

(2) 授業の分析と考察

① 手立てについて

ア マッピングの活用から

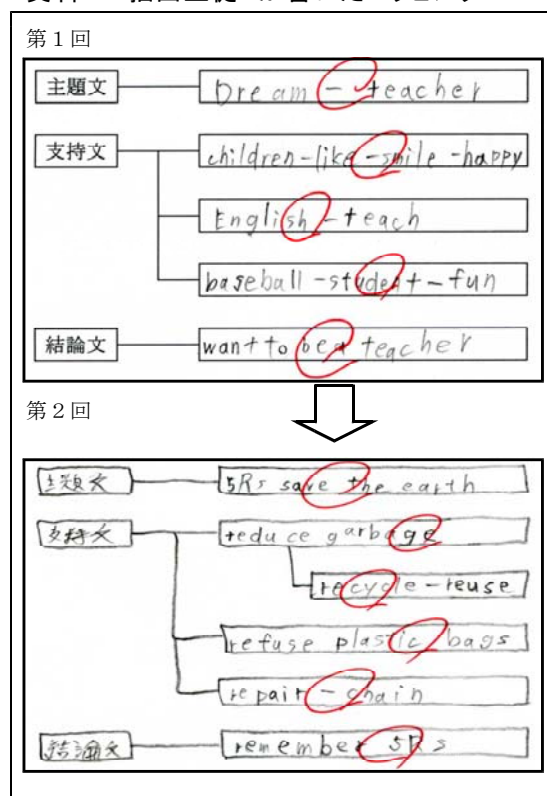
本研究では、ポストリーディング、つまり読後としてのマッピングを取り入れた。生徒は対話文を読んだ後、その内容について、キーワードを書き出した。資料5は、抽出生徒Aが書いたマッピングの変化である。第1回は、P9の資料6の対話文を読んだ後、型の中に主題文、支持文、結論文に相当するキーワードを書かせた。型があるので生徒たちは書きやすかったようである。主題文に相当するのが「夢は先生になること。」支持文に相当する文が3つあり「①子どもが好きだから。②英語を教えたいから。③生徒と野球をしたいから」であり、結論文に当たるのが、「先生になりたい。」であることが理解できた。第2回では、教科書のPROGRAM 3 “The 5Rs to Save the Earth” の対話文を読んだ後、型を与えずに、主題文、支持文、結論文に相当するキーワードは何か、グループで自由に書かせた。3～4人で話し合いながら、5つのRに関するキーワードを決める場面が見られた。グループ内で話し合っ

て一つの結論に達したとき、満足したような表情を浮かべる生徒が多かった。マッピングは、内容理解としてだけでなく、一つの問題解決的な学習として生徒たちに達成感をもたせることもできたようである。授業後のアンケートには、「マッピングは、文全体の意味を再確認できるから役に立つ。」「友だちと話し合いながら、キーワードを決めるのが楽しかった。」と書いている。

イ 「再構成」を取り入れた授業展開から

P9の資料6-①は、教師が身近な話題を取り上げて自作した対話形式の題材である。ALTが日本人の先生に、夢について質問している場面である。音読練習をした後、対話の内容を確認するために、対話文の右側の質問に答えさせた。これらの質問に答えていくと、Q1の答えが主題文に相当することが理解できた。同様に、Q2の先生になりたい三つの理由が支持文になり、Q3の1番言いたいこと、「先生になりたい。」という文が結論文になることも分かった。この活動を通して、内容的にまとまりのある一貫性のある文章とは、主題文、支持文、結論文で構成された文章であることが理解できた。P9の資料6-②は、抽出生徒Bが、資料6-①の対話文を自分なりに「再構成」した文章である。「読むこと」を通して「習得」した情報や知識を「書くこと」で活用している。主題文、支持文、結論文で構成された文章を書いているため、まず3点を取得した。また、First, So などのつなぎ言葉を使用しているため1点、さらに、正確な英文を4文書くことができたため、2点を加点し合計で6点を取得することができた。これらのことから、対話文の内容を自分なりに「再構成」

資料5 抽出生徒Aが書いたマッピング



するという活動は、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことに効果があったと言える。

資料6 教師自作の対話文と抽出生徒Bが「再構成」した文章

資料6-① 教師自作の対話文と内容を確認するQ&A

ALTのウィンズリー先生が、「夢」について俊さんと話しています。読んでみましょう。

Winsley : What's your dream ?
 Toshi : My dream is to be a teacher.
 Winsley : Why do you want to be a teacher ?
 Toshi : I like children very much.
 Children's smile makes me happy.
 Winsley : That's true. Do you have another reason ?
 Toshi : I also like English very much.
 So I want to teach the students English.
 Winsley : I see. I hear you like baseball.
 Toshi : Yes. My favorite sport is baseball.
 Playing baseball with the students is a lot of fun.
 So, I want to be a teacher.



Q&A (内容を確認しよう。)

Q1 俊さんの夢は何ですか。

先生になること

主題文

Q2 理由を3つ書きなさい。

① 子供が好き

支持文

② 英語を生徒に教えたい

③ 生徒と野球をすると楽しい

Q3 俊さんが、1番言いたいことは何ですか。

先生になりたい

結論文

資料6-② 抽出生徒Bが再構成した文章

対話文を説明文に書き換えてみよう

My dream is to be a teacher. I have three reasons.

主題文

First, I like children very much.

Second, I want to teach English to the students.

つなぎ言葉

支持文

Third, playing baseball with the student is a lot of fun.

So, I want to be a teacher.

結論文

書き方のポイント!

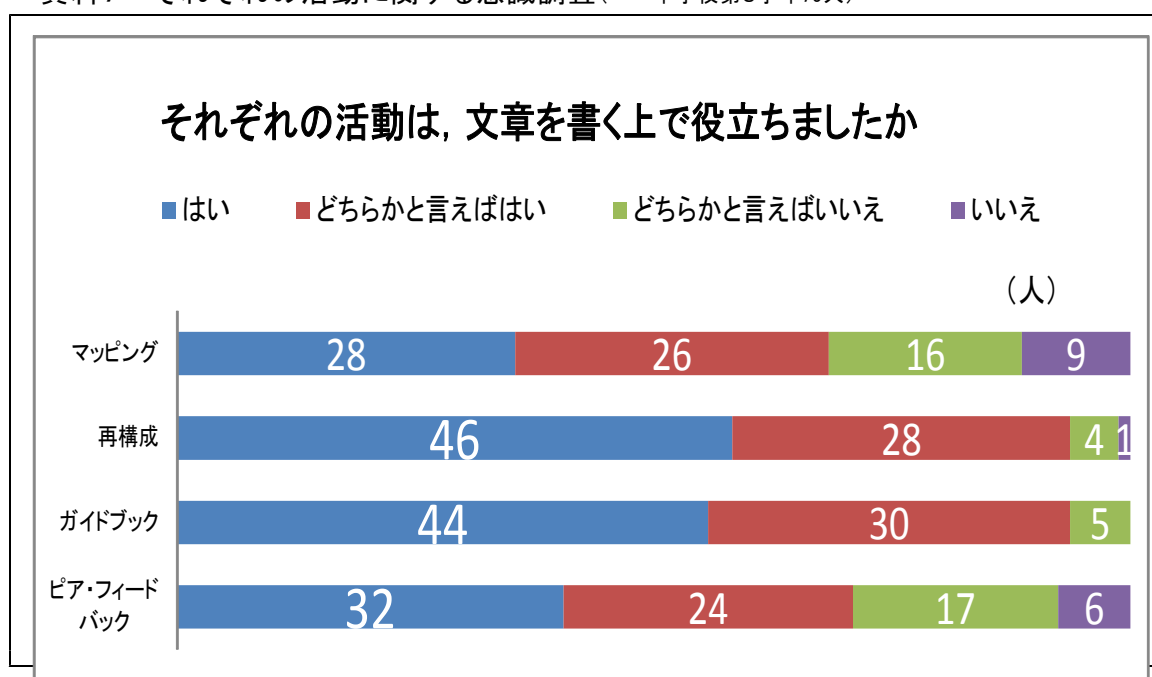
主題文	1点	つなぎ言葉	1点
支持文	1点	正確な文章	4文 → 2点
結論文	1点	合計	6点

まとまりのある英文が書けています
 very good!

ウ ガイドブックの活用から

P 9の資料6-②の抽出生徒Bが再構成した文章を読むと、ガイドブックにある I have three reasons. やSo, などのつなぎ言葉を適切に使用していることが分かる。授業後のアンケートには、「文と文をつなぐときに、ガイドブックの表現がとても役に立った。」「文章の書き方が分かったような気がする。」と書かれている。ガイドブックを活用したことは、つなぎ言葉等を使って内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く上で有効であった。資料7は、それぞれの活動に関する授業後のアンケートの結果である。生徒79人のうち74人（全体の約93%）が、ガイドブックは役に立ったと、答えている。5人の生徒（全体の約6%）が「どちらかと言えばいいえ」と答えており、身近な話題で使いやすい表現を増やすなど、さらなる工夫・改善をしていきたい。

資料7 それぞれの活動に関する意識調査（**中学校第3学年79人）



エ ピア・フィードバックから

3, 4人のグループごとに、お互いに書いた英文を読み合った。友だちの英文を読む機会はありませんでしたので、新鮮だったようである。授業後の感想で、「自分では気付かない誤りを指摘してもらい役に立った。」「友だちの英文を読んで、いろいろな表現を覚えた。」また、「辞書を使うとたくさんの単語を覚えるので楽しい。」と書いている。このように、単語のつづりや文法を正しく書くことで、読み手に正しく伝わるような英文に近付けることができた。生徒のフィードバックだけでは不十分な場合は、教師からのフィードバックも行った。ALTを含め、3人の教師で2グループを担当したため、クラス全員の英文をフィードバックをすることができた。資料7のグラフの通り、授業後のアンケートには、56人の生徒（全体の約70%）が、ピア・フィードバックは役に立ったと、書いている。自分が書いた英文を友だちに読んでもらうことに喜びを感じる生徒が多かった。お互いに書いた英文を読み合うという活動は、読み手に正しく伝わる正確な文章を書こうとする意欲を高めた。

② 学年全体の変容

資料8-①は、中学校第3学年79人の生徒がMy Project 9「自己PRしよう」というテーマについて書いた英文を事前と事後で比較したものである。事前では、3点以下の生徒が61人もいて、4点以上の評価を得た生徒は18人しかいなかった。事後では、3点以下の生徒は18人に減り、4点以上の生徒は61人に増えたことが分かる。グラフを見ると、事前では、全体的に左の方(点数の低い方)の人数が多かったが事後では、右の方(点数の高い方)に人数が移動していることが読み取れる。

資料8-②～④は生徒79人を上位群(27人)中位群(26人)、下位群(26人)の三群に分けて、事前と事後で比較したものである。

資料8-②は、文章の構成について、事前と事後で比較したものである。事前では結論文を書いた生徒は4人しかいなかったが、事後では43人に増えた。今回は読後の活動として、マッピングを活用し、対話文を読んで、その内容についてグループでキーワードを書かせた。生徒の感想には、「新しい学習方法なので興味もあった。」「文章全体の意味を再確認できるから役に立つ。」等の記述があった。また、再構成を通して、主題文、支持文、結論文で構成された文章を書けたことがうかがえる。事後の感想でも、「対話文を説明文に書き直すのは難しかったけど楽しかった。」「結論文は、主題文で書いたことをもう1度書くことが分かった。」「内容的にまとまりのある文章の書き方が理解できた。」といった記述が数多く見られた。

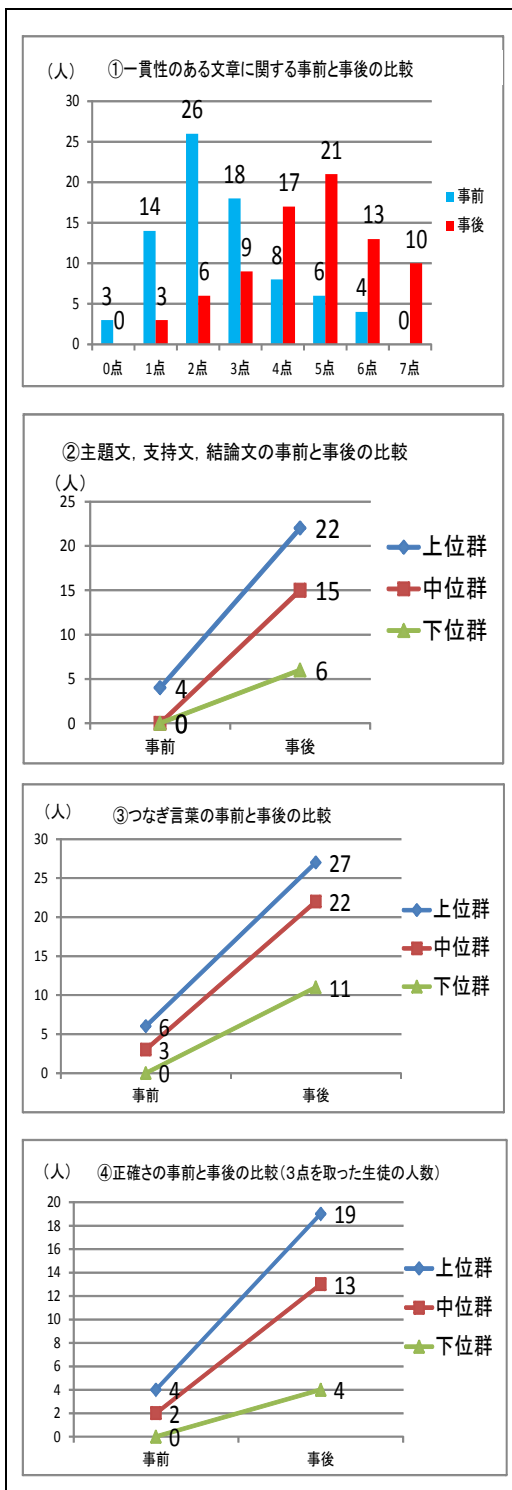
資料8-③は、つなぎ言葉に関する事前と事後の比較である。上位群と中位群の事後を見るとほぼ全員の生徒がつなぎ言葉を使うことができたことが分かる。授業後の感想では、「ガイドブックが参考になり、first, secondなどのつなぎ言葉の使い方が分かった。」「soを書くことでまとめの文になることが分かった。」と書かれていた。

資料8-④は、英文の正確さに関する事前と事後の比較である。事後では36人の生徒(全体の約46%)が正確な文章を書くことができた。ピア・フィードバックを通して、正確なつづりで英語を書く意識が高まっている生徒が増えた。辞書を使うことが習慣と

資料8 一貫性のある文章に関する事前と事後の比較

(前:平成25.10.1 後:平成25.10.10実施)

** 中学校 第3学年79人)



なり、単語のつづりの誤りが減りつつある。

このように、ポストリーディング（読後）の活動として取り入れたマッピング、対話を説明文に書き直す「再構成」、お互いの英文をグループで読み合うピア・フィードバック、さらに教師からのフィードバックを取り入れた授業展開を通して、少しずつではあるが、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書くことができるようになってきていることが分かる。

(3) 実践の結果と考察

資料9は、抽出した生徒3人の変容である。抽出生徒Aは、事前では、単なる英文の羅列であったが、事後では、first, secondを使って保育士になりたい理由を順序よく書き、for these reasons を使って結論文を書いていることが分かる。正確な文章を5文書いたため、総合で満点の7点を取得した。抽出生徒Bは、つづりや文法の誤りが多かったが、事後では誤りのない正確な文章を5文書くことができたため、満点の7点を取得した。ピア・フィードバックを通して、お互いの英文を検討し合った成果が出ていると言える。抽出生徒Cは、英語が苦手な生徒であったが、ガイドブックを活用し、短い英文ではあるが、first などを使って主題文の理由を説明する支持文を書くことができた。正確性については、短い英文ではあるが正しい文を4文書くことができたため2点を獲得し総合でも5点を取ることができた。事前では、主題文を1文書いただけなので、2点しか取れなかったが、3点の向上が見られた。3人とも点数に向上が見られ、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力が育ってきている。

資料9 抽出生徒の事前と事後の英文(生徒が書き起こした原文のまま記載)
(**中学校第3学年79人)

事前				事後							
抽出生徒A		抽出生徒B		抽出生徒C							
I want to <u>de</u> a nursery school teacher. I like children. I can't play the piano and study. I practice <u>play</u> the piano and study <u>herd</u> .		I'm in the <u>buras band culd</u> . I play the clarinet for three years. It's difficult, but it is fun. So, I must practice the clarinet very hard. I want <u>playing</u> the clarinet well.		I like EXILE.							
↓		↓		↓							
<p>主題文</p> <p>My dream is to be a nursery school teacher. I have <u>tow</u> reasons.</p> <p>First, I like children very much.</p> <p>Second, I want to teach them how to play the piano. So, I practice playing the piano <u>ard now</u>.</p> <p>結論文</p> <p>For these reasons, I want to be a nursery school teacher.</p>		<p>支持文</p> <p>I like music very much.</p> <p>First, I'm in the brass band club.</p> <p>Second, I've played the clarinet for three years. Third, I want to play it well, so I'm practicing hard.</p> <p>So, I like music very much.</p>		<p>支持文</p> <p>I like EXILE very much. I have two reasons.</p> <p>First, they are cool.</p> <p>Second, they sing well.</p>							
	事前	事後	増減		事前	事後	増減		事前	事後	増減
文章構成(3点満点)	2	3	+1	文章構成(3点満点)	2	3	+1	文章構成(3点満点)	1	2	+1
つなぎ言葉(1点満点)	0	1	+1	つなぎ言葉(1点満点)	1	1	+0	つなぎ言葉(1点満点)	0	1	+1
正確性(3点満点)	1	3	+2	正確性(3点満点)	2	3	+1	正確性(3点満点)	1	2	+1
合計点(7点満点)	3	7	+4	合計点(7点満点)	5	7	+2	合計点(7点満点)	2	5	+3

6 研究のまとめ

平成23年9月～12月の約3か月間、茨城県教育研修センターにおいて、長期研修をさせていただいた。それ以後、「再構成」を年間指導計画に位置付け、ライティング関連の単元において、計画的・継続的に行ってきた。資料10は、中学校第3学年53名の各単元における英作文の点数別人数である。「再構成」を継続的に行ったことで、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力が高まっていることが分かる。

資料10 各単元における英作文の点数別人数（**中学校 第3学年53人）

	単元名	点数	7	6	5	4	3	2	1	0
平成24年6月	有名人にインタビューしよう		10	9	13	9	5	4	3	0
平成24年7月	ウェブストアへのメール		13	9	16	6	4	3	2	0
平成24年10月	伝統文化を説明しよう		14	13	11	8	4	3	0	0
平成24年11月	ホームページで学校紹介		16	14	11	6	3	3	0	0
平成25年1月	自己PRしよう		18	14	12	5	2	2	0	0

この「再構成」を学習していない生徒の県学力診断のためのテストの英作文では、A評価を得た生徒は6人で全体の9%であった。一方、「再構成」を学習した平成24年度の第3学年では、A評価を得た生徒は11人で全体の約20%にあたる。

これらのことから、第3学年My Project 9「自己PRしよう」における「再構成」、及びそれを支えるマッピング、ガイドブックの活用、ピア・フィードバックを通して、内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書く力を育てる英語科学習指導について追究した結果、次のことが明らかになった。

- (1) 「再構成」を取り入れた授業を展開したことは、文章の構成を理解させ、一貫性のある文章を書く力を育てる上で有効であった。
- (2) 読後のマッピングは、キーワードを分類・整理することに効果的であった。
- (3) ガイドブックは、生徒が文章を書く際に、接続詞やつなぎ言葉等を使う上で大いに役に立った。
- (4) ピア・フィードバックは、正確な英文を書こうとする意欲を育てる上で効果があった。

7 今後の課題

- (1) 「再構成」によって、文章の組み立て方は理解できたが、形式だけでなく、代名詞などを利用した、より内容的にまとまりのある一貫性のある文章を書かせる指導の充実を図っていきたい。
- (2) 正確な英文を「書く力」を伸ばすための指導方法をさらに追究していきたい。
- (3) マッピングのキーワードを使って、英文に構造化していく力を育てていきたい。

〈引用文献〉

- 1) 文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」平成20年9月
- 2) 大井恭子「パラグラフ・ライティングの指導入門」大修館書店 平成20年

〈参考文献〉

- ・小室俊明「英語ライティング論」河源社 平成13年11月
- ・村岡英治「確かな表現力を身に付けるための英語科授業の研究」平成23年6月